

再任用・再雇用職員・非常勤教員部ニュース

No. 322
2019.6.12

東京都公立学校教職員組合（東京教組）

再任用・再雇用職員・非常勤教員部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 2F

TEL. 03-5276-1311 FAX. 03-5276-1312

来年度から使用する小学校教科書の採択作業が始まっています

部長 鈴木 達哉

小学校では、来年4月から新学習指導要領が全面実施となり、そこで使われる教科書の採択が今年夏に行われます。現在どこの区市町村でも、教科書採択の作業が進められています。

新学習指導要領は、「何ができるようになるのか」という観点から、「資質・能力」の育成が重視され、「何を知っているか、何ができるか」、「知っていること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の三つの要素が挙げられています。また、「主体的・対話的で深い学び」が強調され、授業方法まで定められています。

各教科の学習内容は増加し、小学校6年間で使う教科書の平均のページ数は、現行より10%増え、英語科を入れると前回より14%増になっています。新たに「プログラミング教育」も必修化され、算数、理科などで取り扱われています。学習内容の増加は、教員にも子どもにも大きな負担となります。

2013年文科省は教科書検定基準を改訂し、社会科については、「未確定な時事的事象は、特定の事柄を強調しすぎない」「近現代史で通説がない数字などの事項については、通説的な見解がないことを明示」「閣議決定等の政府見解や最高裁判所の判例がある場合には、それらに基づいた記述をする」の3点を加えました。改訂により、近現代史や領土問題については政府見解のみを記述し、押し付けることができるようになりました。

今回検定に合格した社会科教科書には、領土問題で政府見解が詳しく書き込まれています。北方領土だけでなく、竹島、尖閣諸島についても、単なる「日本の領土」ではなく「固有の領土」とされ、さらに尖閣諸島について「領土問題は存在しません」と書かれているものもあります。尖閣諸島は「国としての適切な管理」を行い、韓国に対しては竹島について「抗議を続けています」と記述されています。

また、「憲法改正」が初めて取り上げられたり、自衛隊の災害派遣の記述が増えたりしています。

現在、教科書採択に現場の声が届きにくい制度になっています。6月末から7月初めまで行われる教科書展示会は、17時までのところがほとんどで、勤務のある日に全教科書を詳しく見ることはほとんど不可能です。教科書展示会は、通常は土日も開いていますので、市民として展示会場へ出向いて、会場に置いてある用紙に意見を記入することができます。

また、使用する教科書を決定する教育委員会は、7月～8月に行われると思われます。ご自分の在住・在勤の地区の教育委員会の日程を確認して、是非参加してみてください。教育委員各自の発言のチェックもできます。

本土復帰 47 年 2019 沖縄平和行進に参加して 前部長 林 健

沖縄は今年で、復帰 47 年を迎えた。そもそもは太平洋戦争の末期に、日本の戦争指導者たちの無為無策と無責任によって「本土決戦への時間稼ぎ」「国体護持のための捨て石」にされた沖縄は、その後も「天皇制維持」のためアメリカへの貢物とされたあげく、日米安保体制の基盤として米軍基地を押しつけられてきた。47 年前の「本土復帰」において、沖縄の人々は「日本国憲法の下に暮らす」ことを希望したが、そうはならず現実には「憲法番外地」に置かれることとなった。そのことを結果的にスルーしてきた私達には、沖縄の問題と真正面から向き合う責任があるのだ。だから、沖縄平和行進には、積極的に参加すべきなのだが、なかなか参加できなかつた。そこで、今年は万難を廃して参加した次第だ。

東京平和運動センターでの参加は、18 日からの 3 日間。一日目は、昼過ぎに那覇空港に着き、ひめゆりの塔、平和祈念公園・資料館、平和の礎と南部の戦跡を巡った。我々のバスのガイドさんは、開口一番「74 年前の 1945 年、このあたりがどんな状況だったのか想像してみて欲しい」と話し、今はなくなっている「戦争体験者」から聞き取った当時の状況を語ってくれた。こうしたことができるガイドさんも、今では少数となっているようだ。一方で、ひめゆりの塔や平和の礎を修学旅行と思しき中学生・高校生の団体がいくつも訪れていた。若者たちが沖縄について学んでいることは、まさに希望の光だ。

二日目は平和行進の最終日である。宜野湾市役所から宜野湾海浜公園まで、約 6 km をデモ行進した。梅雨入りしたとは思えないまさに炎天下のデモ行進となった。さらにデモ隊は、右翼の街宣車にしつこく付きまとわれ、大音量での罵声を浴びせられ続けた。右翼の妨害は、全国教研でも経験しているが、今回のように、長時間にわたって妨害されたことはなかつた。それでも、沿道から手を振ってデモ隊を応援してくれる多くの市民の姿があつて勇気づけられた。

三日目、最終日は前日と打って変わって激しい雨となったが、ホテルを 7 時前に出発し、辺野古のキャンプシュワブへ向かった。ゲート前には、金沢大学の学生や関西からの労働者たちが座り込んでいた。東京からの参加者を含めて 200 人を超える人々がゲート前に集結していた。午前 9 時が近づくと、新基地建設のためのダンプカーなど工事車両が次々とやってきた。ゲート前に集まった人々は「沖縄を返せ」「ここへ座り込め」などを歌って機動隊による排除を待ち構えていたが、なんと、200 人を超えているためか強制排除はなく、工事車両は、ゲート前から走り去っていった。この日の第 1 回目の資材搬入の阻止に成功したのである。何度も座り込みや支援行動に参加している、平和運動センターの事務局の方々も「こんなことはめったにない」と興奮して教えてくれた。多くの市民が集まることで、非暴力で国家権力の横暴を止めることができるのだ。沖縄の闘いはそのことをしっかりと教えてくれている。一人でもこの戦いの隊列に加わって欲しい。

「止めよう辺野古新基地建設・9条改憲・安倍政権の暴走を!国会包囲行動」



25日 日陰を探しての座りこみ

5月25日、「止めよう辺野古新基地建設・9条改憲・安倍政権の暴走を!国会包囲行動」が、開催されました。この日の行動は、全国32の都道府県、38地域で開催された全国総行動の一環として実施されました。猛暑の中5000人の参加がありました。

集会では、主催者を代表して野平晋作さん(国会包囲実行委員会)が冒頭にあいさつし、「2月の県民投票で、新基地建設反対の沖縄県民の意思が明確に示されました。ボール

は本土の側に投げられました。本土のたたかいが問われています。沖縄の民意が尊重されないなら、日本に民主主義はないこととなります。沖縄に過剰に押し付けられている米軍基地問題を解決することで、日本に本当の平和と民主主義を実現しましょう」と訴えました。続いて、作家の落合恵子さんは、安倍政権の沖縄への仕打ちを「こんな暴挙を許すことは沖縄県民はもとより、この国の民主主義を破壊・破滅する道でしかありません。」と大きな怒りの声をあげました。

沖縄から駆け付けた安次富浩さん(へり基地反対協)は「私たちは『勝つこととは、あきらめないことだ』を合言葉にして、座り込みや、抗議行動を展開しています。衆参の同日選の情報が流れていますが、堂々とたたかって、安倍政権を打倒しましょう。この国を変えるのは私たち主権者です。」力強く呼びかけました。

政党からは、石橋参院議員(立憲民主党)、森参院議員(国民民主党)、小池参院議員(共産党)、福島参院議員(社民党)が駆けつけ、それぞれ、辺野古新基地建設の強行に反対し、安倍政権の退陣を求めて共に闘う決意を述べました。

東京の動きとして、内山さと子武蔵野市議会議員から、武蔵野市議会が政府に対し沖縄の県民投票の結果を尊重することを求める意見書を採択したことが報告されました。「(武蔵野市のほか)小平市、小金井市でも意見書が採択され、本土の私たちが声をあげ行動することが今、求められています。沖縄との連帯をしっかりと示していきましょう。」と呼びかけました。

藤本泰成さん(総がかり行動実行委員会)は、学者・弁護士・文化人らによる公開ヒアリングの際の防衛省の対応を報告し「沖縄の現実がいかに理不尽で、憲法が規定する平和主義と民主主義・基本的人権をいかにないがしろにしているかは明らかです。沖縄と連帯し大きな声をあげていきましょう!」と述べました。

最後に高田健さん(総がかり行動実行委員会)が閉会の挨拶に立ち、「今国会での改憲発議はほぼできなくなった。(中略)参院選に勝利して、安倍政権の崩壊に追い込みましょう!闘いは続きます。共に頑張りましょう」と訴えました。

集会は2部として議員会館前、国会図書館前、国会正門前(市民団体)の三カ所で集会が続けられました。

(「平和フォーラム」ホームページを参考にまとめました。)

「近頃の現場」 最近おかしいな！と思うこと

非常勤教員 末光 美智子（八王子）

最近職場でおかしいな！と思うこと？たくさんありますが、職員会議の形骸化。これは由々しき問題です。以前は、ほとんどの事は職員会議の決定が一番だったと思います。重要なことは意見がいっぱい出されて、時にそこまで揉めなくても・・・と思うことすらありました。

「子どもたちにとってそれはどうなのか。」という視点で意見が交わされたと思います。

今の職場では、読書週間には「読み聞かせ」を昼休みの20分間を使って、保護者がやってくれています。その時間に担任も5分間読み聞かせをするようにと校長から話があった旨、突然に、図書担当の先生から報告がありました。しかも、校長本人は移動教室のため、不在の日の夕会です。質問もできません。質問は受け付けないということでしょうか。

読書週間の提案は数週間前に図書担当から職員会議に提案されていて通っています。当然提案もしているはずですが。職員会議で決まった案件を校長の思いつきのような一言で、それも職員がそろっているところで言うのではなくて、担当の長に階段や廊下ですれ違った時に唐突に言って、それで職員を動かそうと思っているのです。校長は、職員は自分が言えば動くと思っているのですよね。これが・・・。

「おかしいでしょう。だめですよ。できませんよ。」と言う教員はほとんどいないのです。

「そんなこと言うと主任任用試験で落とされちゃうかも。」なんて真顔で言う若者もいます。

昼休みの子どもたちの休み時間を20分全部使えるわけもなく、正味15分の読み聞かせを10分と5分に分けて担任が読み聞かせをやる意味ってあるのでしょうか。担当のお父さんお母さんだって準備してきてくださっているのに。

後日、そこを質問すると、校長は「それはもう保護者に言ってあるから。」というのです。それって、もっとおかしいですよ。校長が職員にも相談せずに決めたことを保護者に先に言うてしまうのですから。

うちの学校の校長だけの問題でしょうか？

自分が言ったこと、思ったことは全部正しくてみんながその通りに動いて当然って・・・。そんなのおかしいですよ。

とはいえ、なんかそんな人がほかにもいたような・・・。最近の我が国のトップも何を勘違いしているのか、自分の思ったことを忖度して行動するのが当然で、違う意見を言う人は「こんな人たち」呼ばわり。国民がどう思っているかではなく政権が何をしたいかですべて動いています。

調査もご都合主義で曖昧。曖昧ならまだしも捏造と隠ぺいで都合のいい数字だけ採用する。質問には答えない。話し合いはしない。（できない？）

それはいい！と思って真似する、あまり頭の良くない校長先生方。

国のあり方が、学校から民主主義を奪っていると思います。

最近職場ですごくおかしいな！と思っていることです。